

ユニバーシアード
代表候補

FC東京



中盤の中央は駒大でコンビを組む中後（中央）と田中（左）。しかし、この日は「全然機能しなかった」と中後は語った（撮影・岩田陽一）

ユニバーへの収穫と不安...

攻撃の形が徐々に 見え始めてきた

エスパルスに0・1と惜敗し、静岡産業大学に3・0と圧勝したユニバーシアード代表はこの日、FC東京と対戦。この試合は45分×3本という変則形式。ユニバーシアード代表にとっては合宿最終日ということもあり結果と内容が求められる試合となった。

試合は大方の予想通り、FC東京が支配する。8分、アマラオのスルーパスにいち早く反応したケリーがシュート。しかし、ここは塩田が好セーブ。難を逃れたかと思われたがFC東京の攻勢は衰えない。アマラオ、ケリー、阿部吉のコンビネーションは冴え渡り、石川のドリブルは度々なくユニバーシアード代表の左サイドを切り裂いた。初召集の田中はユニバーシアード代表のサッカーに戸惑い気味で持ち味のパスがなかなか前へつながらず、20分には堀のセンターリングから山崎が飛び込むがジャンソンにクリアされてしまう。逆に、堀の攻めあ

代表のサッカーに戸惑いを見せていた田中(左)だが、その闘志は代表でも変わらなかった



がったスペースを突かれ石川がドリブル突破。鋭いセンターリングはアマラオに渡るがシュートはパー直撃。またしてもユニバーシアード代表は難を逃れる。しかし、次第にFC東京のプレスに慣れてきたユニバーシアード代表は徐々に自分達のサッカーを展開し始める。だが、その直後だった。35分、攻撃に転じたユニバーシアード代表の裏をつき阿部吉が個人技で突破。シュートは塩田の右手をかすめゴール。昨年、全日本大学選抜で活躍した先輩にあたる阿部吉に引導を渡された形になった。その後、集中がきれてしまったのか40分、ケリーがアマラオとのワンツーで抜け出しシュート。鋭いシュートはゴールネットに突き刺さり0・2で一本目を終了する。

二本目はユニバーシアード代表にも決定機が！15分、徐々にまわりとの連携が組み合ってきた田中のダイレクトパスが田代へ。田代のセンターリングは山崎に渡り、一度はキーパーに防がれるも中後がつめ待望の得点が生まれたかのように思われたが、中後にフールがあ